



公益財団法人 国際文化会館
International House of Japan

日文研・アイハウス連携フォーラム Ⅱ

谷川道雄の中国史研究から 日中の未来を考える

— 文化交流と学術思想

リ サイソウ

講師：李濟滄（南京師範大学准教授・日文研外国人研究員）

リュウ ガン イ

コメンテーター：劉岸偉（東京工業大学教授）

伊東 貴之（日文研・総合研究大学院大学教授）

2017年 **7/4** (火) 6:30-8:00 pm (開場 6:00 pm)

会場：国際文化会館 講堂

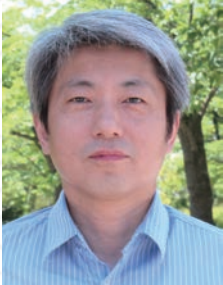
用語：日本語(通訳なし) 参加費：無料(要予約)

京都学派の東洋史学者として著名な谷川道雄（1925-2013）は、「豪族共同体論」を打ち出して皇帝支配一色に塗られていた従来の中国史の見方に一石を投じ、さらに新中国の成立と文革、改革開放といった激動の中国近現代史にもその眼差しを向けました。

中国から日本、東アジアから世界、歴史から未来へという壮大な構想を持った谷川史学の真髄は、人と人との連帯を重視する人間存在の様式を中国史に再発見し、普遍性を見出そうとした点にあります。本フォーラムでは、戦後日本の社会思想史の分野の中で、日中両国の未来を照らした谷川史学の醍醐味を李先生に語っていただきます。

❖ 国際文化会館(アイハウス)と国際日本文化研究センター(日文研)は、2014年度より、多角的に現代日本の理解を深めるためのフォーラムをシリーズで共催しています。

講師プロフィール



リ サイツウ
李 済滄 (南京師範大学准教授・日教研外国人研究員)

2003年、龍谷大学大学院東洋史学専攻博士課程修了(文学博士)。06年より現職。専門分野は中国中世史、日中学術交流史。主な著作に『東晋貴族政治史論』(江蘇人民出版社、2015年)、訳書に『隋唐帝国形成史論』(上海古籍出版社、2004年)、『六朝貴族制社会研究』(上海古籍出版社、共訳、2007年)、主な論文に「六朝貴族的自律性問題」(『文史哲』2016年第4期)、「現代中国と京都学派の近世論—中国における『近代』の問題をめぐる—」(『龍谷史壇』134号、2011年)など。

コメンテーター・プロフィール



リュウ ガンイ
劉 岸偉 (東京工業大学教授)

北京外国語大学アジア・アフリカ学部を卒業し、1982年来日。東京大学大学院総合文化研究科比較文学・比較文化博士課程修了、89年博士号取得。専攻は比較文学、比較文化史。主な著作に『明末の文人李卓吾』(中央公論社 1994年)、『小泉八雲と近代中国』(岩波書店、2004年)、『周作人伝—ある知日派文人の精神史』(ミネルヴァ書房、2011年)など。



伊東 貴之 (日教研・総合研究大学院大学教授)

東京大学大学院人文科学研究科中国哲学専攻学位取得修了。博士(文学)。武蔵大学人文学部教授などを経て、2010年より現職。専門分野は中国近世思想史、日中比較文学・思想、東アジア交流史。主な著作に『思想としての中国近世』(東京大学出版会、2005年)、編著に『治乱のヒストリア—華夷・正統・勢』(法政大学出版局、2017年)など。

お申し込み・お問い合わせ

国際文化会館 企画部 (月-金 9 am-5 pm)
東京都港区六本木5-11-16 TEL:03-3470-3211
E-mail: program@i-house.or.jp www.i-house.or.jp

講演当日、予約確認メールまたは本チラシをご提示の上、国際文化会館内のレストランでお食事いただいた方には食後のコーヒー/紅茶もしくはアイスクリーム(ザ・ガーデン)、グラスワイン(SAKURA)をサービスいたします。ご利用の際は、事前ご予約をお勧めいたします。

